

息子（ 釧路 児玉 昌彦

営業に見切りをつけて大学に戻りし息子ワーキングプア
男一匹生きるに難きこの世をば返り血浴びてもなお闘わんか
かつこよく大輪咲かすが命ならず隙間にしぶとく生きよ雑草
退くも地獄・進むも地獄のこの修羅場抜けたる後は強さをば得ん
親から子へ伝えんとしても伝わらぬ自分を生かす人生の生き方

北陸旅行 旭川 稲積 文子

「稲積」の地名が書かれし場所ありて束の間にバスは通り過ぎ行く
若鮎を炙りて丸ごと食べる「川金」の味をたのしむ北陸旅行
肺転移を告げて医大のロビーを去りし人着流しの後姿が最後となりぬ
墓前にて涙も鳴咽も届きしか夕暮せまる森の片隅
何時もよりやさしくしても気がつかないそれなりに平和な老後の生活

石狩の浜 江別 三宅 浩次

陽を浴びて石狩浜の灯台はなぜか派手な赤白模様
灯台の脇に広がる撫子は小粒ではあれたくましく咲く
喜びもまた悲しみもこの灯台ドラマとなりて人訪ね来る
子らを連れ石狩浜に騒がしく遊びの声も遠い日のこと
潮風が頬に涼しく望来の丘を過ぎ行くこの一時に

北海道医歌人会詠草

大通公園 札幌 山口 康徳

公園に光沢放つキングサリ往時の威厳四辺圧するがに
法衣もて鎧かくせる外国も時の至るやそをさらけ出す
おそひたる未曾有の惨禍傷のこす整理整頓意に逆らひて
サッカーの技術あがれる女子チームトップとなりて気焔を吐くや
かずかずの苦難をこえて再起せる相撲の全員らみな精進せよや

カオス 札幌 古屋 統

一億にうつ病蔓延危惧されて国は保健の施策見直す
ストレスに弱き民らを殖やせしは豊か社会に慣れすぎしツケ
職域の健康診断メンタルのチェックの可否の論も飛び出す
坑員の我が兄うつを患えり炭鉱閉山相次ぎし日々
我れうつに罹らぬ自信全く無し妻子病まぬに今は救われて

父の命日 美唄 吉村 誠治

玄関を掃き水を打ち住職を家族と迎へる父の命日
正信僧に合はせて吾の読む声の力の衰へを知る
読経終へ僧と対ひて飲むお茶は渴ける喉に心地良きかな
憧れて津軽の海を渡り来し同期の友の訃報に黙す
年男の八十四歳嬉しきも訃報相次ぎ水無月の過ぐ

タンポポ 札幌 浜島 泉

タンポポの群れ咲く丘を足元に見下ろす高き跨道橋行く
久びさに町中にてツツドリを聞く戻らぬと思ひをりしに
我が歌をロマンチックと評しつつ宮仕へ歴少し匂ふと
新婚の年の納涼川花火 路面電車に乗りて行きけり
回診時握手を求め差し出す手スマイルあれど発声がなく